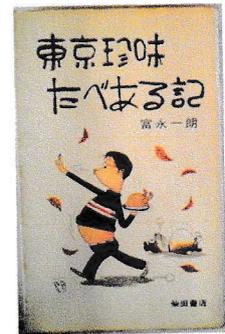


樋口七郎 思い出の珍味店 あれこれ

若かりし頃出会った富永一朗の「東京珍味
たべある記」を読んで出かけた店を思い出しました。

今回は店名ということで笑介します。まだあるのかな？

「駒形どぜう」@浅草駒形、ふぐ料理「天竹」@勝鬨橋傍、鹿児島郷土料理「さつま」@新橋、有明海料理「有薫酒蔵」@有楽町、いわし専門「いわしや」@銀座7丁目、豆腐料理「笹乃雪」@台東区根岸、スキヤキ料理「ぼたん」@神田須田町、あんこう料理「いせ源」@神田須田町、さくら鍋「みの家」@深川森下町、くじら料理「くじらや」@錦糸町・「くじら屋」@渋谷、猪鍋・鹿鍋「栃木屋」@新宿、秋田料理「秋田」@新宿・・・今は無くなった店もあるようですが、書き出すと懐かしい味を思い出しますねえ。ああ、おいしかった。



私の珍味食べ歩き

樋口七郎

私が、東京に居ながら地方の珍しいものを食べさせてくれる店、またその店でしか食べられないものを食べさせてくれる店の食べ歩きをしようと思ったのは、入局して2年くらいたった頃で、2つのきっかけがありました。1つは風邪をひいて、煙草を止めようかと思ひ、煙草を止めたなら、その残るであろうお金(?)を食べる方に回そうかと思いついたこと、もう1つは、その頃私の好きな漫画家で“チンコロ姐ちゃん”をかいた富永一朗さんが3年かけて「月刊食堂」に連載して、安サラリーマンでも気軽に行ける100軒の店を食べ歩いた記録の「東京珍味たべある記」という本に出会ったことです。

こうした2つのきっかけと、食べ物の貧しい時代に育った反動からか、それからの私は、独身をいいことにして、機会をみては、富永一朗さんの本を片手に1人で、また局の同僚を誘って(ほとんどでした)食べ歩きに精を出したものです。そうかといって収入に限りがあり(その頃の私の給料の手取りは15,000円位であり、1回に平均1,500円くらいかかった。なお革靴が3,000円くらい)地理的な制約(私の住まいに近い新宿周辺や勤務先に近い神田や銀座方面に集中した)また、そんなに時間的に余裕もあるわけでないので(4人で中国語の勉強)制約はありましたが、それでも40軒くらいは食べ歩きました。

そこで、私が特に印象に残った何店かをご紹介します。

浅草駒形にあり、はとバスのコースにもなっている、どぜう鍋料理の「駒形どぜう」(どじょうのまちがいではありません)勝鬃橋のそばの、今でも気楽に入れる、ふぐ料理の「天竹」新橋センター1号館の地下にあり鹿児島の郷土料理の店で、さつま揚げ、きびなご、豚肉の角煮のとんこつ、それと鉄瓶で出す焼酎を飲ませてくれる「さつま」(ここは俳人の楠本憲吉さんがよく訪れたとか)有明海でとれたものを食べさせてくれる、郷土料理の店で、東京ではここでしか食べられないであろう“むつごろう”や“わらすぼ”を食べさせてくれる有楽町の「有薫酒蔵」銀座7丁目のいわし専門料理の「いわしや」、今でこそいわしの刺身はあちこちで食べさせてくれますが、25年くらい前は、都内でいわし

の刺身を食べさせてくれる店は珍しかったと思います。台東区根岸の豆腐料理の「笹乃雪」は豆腐だけを材料とした料理で7種類くらい出してくれます。(ただしゴマ豆腐は葛が材料です)

神田須田町のとりのスキヤキ料理の「ぼたん」このぼたんは私が何回か足を運んだあとある会の幹事をやっていた時、それではここがよかろうということで30名位の出席者で忘年会を開催し、ドンチャン騒ぎをしたのも懐かしい思い出です。ぼたんの隣の、あんこう料理の「いせ源」は世界の三大珍味と言われるフォアグラに似たあん肝を食べさせてくれましたが、値段の方も当時としては私の財布にはかなりの負担で、現在ではフグが高くなって、それにつられてあんこうも高くなり大衆魚ではなくなり、我々にはあんこう料理屋の敷居は益々高くなってしまいました。

深川森下町の馬の刺身(全国で馬の刺身を食べる習慣のあるのは、山梨県と長野の松本方面と熊本県という説あり)とさくら鍋(馬の肉の鍋。馬肉のことを別名“けとばし”という)の「みの家」などは寒い冬の夜4、5人で両国駅から道行く人に場所を聞きながら30分くらいさがし歩いて食べにいったものです。

くじら料理の錦糸町の「くじらや」渋谷の「くじら屋」などにも行って、くじら鍋や刺身をよく食べました。くじらの肉は戦後の日本人の重要な蛋白源であり、くじらの竜田揚げは食堂の定食として1番値段が安く、私も一杯飲み屋でのつまみにはくじらのベーコンが好物でありまた値段も安かったのでよく食べましたが、今は高級料理の仲間入りでベーコンなど店頭で100グラム3,000円もしたら、とても我々の口に入らないのではないかと思います。

猪鍋・鹿鍋の新宿西口の青梅街道沿いの「栃木屋」、新宿東口の食堂横丁といわれるところがあり、文人墨客がたむろしていたといわれる秋田料理の店で、はたはたと塩汁(しょつつる)きりたんぼの「秋田」の両店などは家から近いこともあり、独身時代もまた結婚してからもよく足をはこんだものですが、「栃木屋」は現在休業中で「秋田」はいつしか店じまいをしてしまい、今は面影もありません。

(蛇足)

私の決意した禁煙は2カ月位で終わり、それからまた10年くらいすい続けて、局の同僚と禁煙の競争をして、2~3年かかって完全に禁煙をして、それから現在まで15年くらい禁煙継続中です。同僚はまだすい続けています。